

ニューズレター 第7号

大阪学院大学外国語学部

外国語学部は実績主義

—夢を実現した先輩に続いて下さい—

2013年3月30日発行

外国語学部の学びのポイント

外国語によるコミュニケーション能力(英語、独語、仏語を、読み、書き、聴き、話す力)を最大化することによって、学部生の 1) キャリア形成(教職を含む) 2) 留学 3) 大学院進学をサポートします。

「学生」から「教師」へ成長中

大江 優佑さん(英語学科 2012年3月卒業。2012年4月より大阪学院大学高等学校 英語科非常勤講師)

私は2012年3月に外国語学部を卒業し、4月から大阪学院大学高等学校で英語科非常勤講師として教壇に立たせてもらっています。何が教師として正しくて何が間違っているのか、どのように生徒に接すれば彼らは心を開いてくれるのか、まだまだわからないことが多いですが、周りの多くの人たちに助けられながら自らの「理想の教師像」に近づけるように日々努力しています。



ないことが多いですが、周りの多くの人たちに助けられながら自らの「理想の教師像」に近づけるように日々努力しています。

大学生活の4年間は私の人間性を大きく変えたと感じています。生まれつき何か1つのことに集中し

ていなければ不安になるタイプの間違った私は、大学に入学した時も、何か1つ自分の大学生生活の成果を形にして残さ



なければという理由で、教職課程を履修し始めました。この教職課程の授業がある大学生活は、私にとってとても衝撃的なものでした。まず履修しなければならない授業数がとても多く、それに伴って毎週出される課題の数も授業数に比例して非常に多かったからです。もちろん今までレポートなど書いたことがなかった私は、人よりも課題を作成するのに時間がかかり、必然的に睡眠時間を削りながら大学へ向かう毎日を送っていました。2年次を終了するまでの間、何度もくじけそうになりながらも、周りの仲間たちと励まし合いながらなんとか乗り越えることが出来ました。

私は3年次になった年に「英文学」という授業に出会いました。2年次までは教職課程の授業と外国語学部の必修科目の授業に追われ、自分が受けたい授業として自ら選択して受講することがなかったなかで、初めて自分で選択して受けたのがこの授業でした。この授業は私の心をガッチリとつかむようなとても興味深いものでした。そしてここで私の中にある欲がわいてきました。「もっと自分が知らない世界を知ってみたい」というものです。3年次になり余裕ができたとはいえ、教職課程の授業を受けなければならない、そして教職ゼミで教師になるために学びたいことがたくさんある、けれど自分が受講したい授業も他にたくさんある。皆さんならどれを諦めますか。私は何も諦めませんでした。たくさんの先生方や職員の方に無理を承知で頼み込んで授業を受けさせてもらいました。また私生活でもいろいろな人たちと出会うことが出来ました。音楽が好きな人、バイクが好きな人、独自の興味深い習慣がある

地域で育った人、そして日本とは異なる海外の文化で生まれ育った人、こういった人たちとの出会いもまた私の世界を広げてくれた大きなものでした。

学ぶことを望めば最大限の協力をしてくれる大学、私の知らないことを教えてくれる周りの人たち。この2つとの出会いは入学時の「狭い」視野しか持っていなかった私を、「広い」展望を持った大人の人間へと変えてくれました。大学生活で、学ぶことの面白さと自分を成長させてくれる人との出会いの重要性を知ることが出来た私は、今教師として生徒の前に立っています。自分自身が大学生活で実感したこの2つの事柄を、教え子である高校生たちにどのようにしたら伝えることが出来るのかが私のこれからの課題になりそうです。

さて、皆さんの先輩としてのアドバイスです。皆さんには何か目標がありますか？もしまだ特にやりたいことが決まっていけないのであれば、受けたことのない授業、ボランティア活動、インターシップへの参加など、どんな事でも結構ですので、自分の意志で新しいことにチャレンジしてみてください。その際大学の先生や施設を遠慮なく使ってください。君たちが今いる大学は望まない学生には何もしてくれませんが、望む学生には最大の協力をしてくれる大学です。夢を持つのはいつから始めても遅過ぎるということはありません。「これが私の夢なんだ！」と言えることを1つ作り、それを叶えるために努力する。皆さんがそんな素晴らしい充実した大学生活を送ることが出来るように応援しています。

(オオエ ユウスケ)

ドイツ語専攻からパティシエに

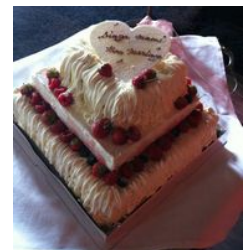
内海 胤城さん（ドイツ語学科 2005年3月卒業。ダニエル神戸洋菓子店勤務。）

私は2007年春より、現在の会社ダニエルにてパティシエとして働き始め、今年で丸6年になります。大学で4年間ドイツ語を学んだ私が



今ケーキを作っているということは、一見、関連性がないように皆さんお思いかもしれませんが。

私は大学入学当初、将来的なはっきりしたビジョンを持っていたわけではなく、漠然とこれからの国際社会において言語や文化を学ぶことは必須要件だと思い、外国語学部ドイツ語学科を選択しました。入学してから、大阪学院大学には私が求めていた言語や文化を学ぶ環境が十二分に備わっていたことを実感できたことは、とても幸運だったと思います。中でも1番私にとって有意義であったのは神谷先生のゼミの授業でした。クラスは7名で、皆がそれぞれの研究課題をもってドイツ文学について4年間勉強しました。ゼミ合宿やドイツクリスマスマーケットなど、少人数で先生との距離も近く、共に過ごした仲間とは卒業して8年たった現在も交流があり、生涯の友人ともそこで出会うことができました。このことは今でも私にとって本当に貴重な財産です。



就職活動の時期に差し掛かり、将来の具体的な展望がなかった私はこの時、今後の人生について改めて深く考えました。そして、大学主催の学内企業説明会などに参加し、多くの企業の人事担当の方の話聞くことができました。その中で自分が本当にしたかったことは、人に喜びや夢を与え、自分の感性を活かすことができるパティシエの仕事だと気づきました。ただ当初は、この道は非常に厳しく、ただの夢物語としてしか自分自身捉えていませんでした。しかし人生という長い道のりを考えるなら、やはり

自分のやりたい事、自分の夢を追求すべきだと思い至り、それを実際に行動に移す決心をしました。この時から英語、ドイツ語に続く第3外国語としてフランス語を学び始め、ケーキ屋でアルバイトとして働き始めました。

今の職場で6年間働いた今、思うことはいろいろあります。パティシエというのは皆さんが思っている以上にとっても過酷な仕事です。大学を卒業し、この業界に足を踏み入れ、今までぶれることなく続けてこられたのは、大学で将来の生き方をしっかり考え、自分の進むべき道を定める事が出来たからだと考えています。

大学で学んだ言語は今でも非常に役立っています。レシピはフランス語、スイス人の研修生とドイツ語で会話し、日本の名所をいろいろ紹介してあげることもできました。フランスに行った時にも話す機会がたくさんあり、もっとしっかり勉強しておけばよかったと反省しています。ほかにも他国の人々と接する機会が多くあり、その度に大学時代の参考書や辞書を開き、勉強し直しています。

今皆さんが勉強していることが将来どう繋がっていくかはまだ未知数です。ですが、それはいろいろな形で確実に皆さんの力になります。人生には多くのチャンスがあり、それをその時にものにできるかは、今できることを精一杯するかどうかにかかっています。そして動くこと、そうすればおのずと道は見えてくるものだと思います。

大学を卒業して8年、もうすぐ30歳になります。同じ学部の仲間達も様々な仕事で活躍し頑張っています。それは自分にとっても励みになっています。この春私は今の職場を卒業し、5年後、10年後を見据えて新しいことに挑戦しようと考えています。



(ウツミ カズキ)

私の OGU Life

松宮 綾さん (2013年3月英語学科卒業。在学中メディシンハット大学(カナダ)に留学。4月より株式会社アイコンに勤務予定。)

私の OGU での学校生活を一言でたとえると、「全てやりきった」これに尽きると思います。私が外国語学部英語学科を志望したのは、英語が話せたらカッコイイという理由からでした。こんな単純な理由から4年前の春、私の OGU Life が始まりました。



私は、4年間の中で学部の授業以外に、もう1つ頑張ることとして、教職課程を取りました。張り切って教職を取ったにも関わらず、授業は想像よりも厳しく、出される課題や履修しなければならない科目の多さに苦労した時期がありましたが、自分に負けず続けました。4年次での教育実習は、本当に大変でした。母校の高校へ行き2週間英語の授業を教



えましたが、精一杯やっても指導教官の先生に褒めてもらえず、毎日怒られていました。自分の英語力の無

さを痛感しながらも、生徒から優しい言葉をもらった事で、もっと頑張ろうと思えました。たった2週間でしたが、大きく成長できたと思います。

1年次から3年次までの3年間は、周りのみんなと同じように、学校へ行き、アルバイトをして友達と遊び、それに加えて教職課程を頑張る、というごく普通の大学生活を送っていました。しかし、4年

次の1年間は誰よりも充実していたと思います。なぜなら、就職活動・教育実習・交換留学をこの1年の間に経験したからです。

まず就職活動ですが、3年次終わりの春休みのうちから積極的に説明会などへ行き、キャリアセンターの方にも大変お世話になりました。私は、日曜日以外は就職活動の予定を入れると決めて、様々な企業を回りました。そして最終的に3つの企業から内定をいただき、ソフトウェア開発・販売の(株)アイコンに入社を決めました。この企業との出会いは4年次の4月でした。3回の面接の末6月に内定をいただきました。最終面接の前に教育実習があり、私は教育実習での経験やその経験を通して自己成長できたという事を作文にしてアピールしました。

そして、6月までに教育実習と就職活動を終わらせ、9月からの交換留学に向けて英語力の向上に励みました。4月から留学準備の授業があったのですが、本腰を入れて頑張れたのは、就職活動と教育実習を終えた6月の後半からでした。

私にとって交換留学は本当に大きな影響を与えてくれたと思います。私は大学に入学した時から留学に興味があったものの、なかなかチャンスがつかめませんでした。本気で留学に行きたいと思ったのは2年次の頃です。周囲の友達の多くが留学へ行き、私だけが日本に取り残されたような気になったのがきっかけです。自分で留学について調べ資料を取り寄せたり、留学経験者の話を聞いたりした結果、誰でも行ける語学研修のような留学ではなく、大学を代表して派遣されるが故に厳しい語学基準を満たさなければならない交換留学に行きたいと思うようになりました。しかし、私にとってはハードルが高く、なかなかチャンスがつかめませんでした。積極的にI-Chat Loungeを利用し、TOEICの勉強を教えてもらったりイベントに参加したりしました。学校生活以外では、家族に協力してもらい、ホストファミリーの経験をしました。1カ月間アメリカ人を受け入れ、



いろんな所へ観光に行き、たくさん英語を話しました。この経験を通して、海外に対する興味が一層増した一方、自分には日本に関する知識が不足しているという事に気づくことができました。

最終的に、私は4年次の後期からの交換留学に行けるチャンスを得ることが出来ました。多くの人は2、3年次のうちに行きますが、私は少し遅めの4年次に出発することになってしまいました。それでも交換留学に行けて本当に良かったと思います。私は9月からカナダのメディシンハット大学に行きました。寒いイメージが強いカナダでも9月中は30度を超える日がありました。しかし、10月になると一気に寒くなり、どっさりと雪が積もりました。10月に雪を見た事がなかったので、貴重な経験だったと思います。また、感謝祭やハロウィン、クリスマスの季節を海外で過ごせた事がとても良かったです。初めて食べたターキー、本格的なコスチュームを着てのハロウィン、大きなツリーとたくさんのプレゼントに囲まれたクリスマスパーティーなど、全てが魅力的でした。そして1セメスターの授業を終え、年末からはNY、ミシガン、カルガリーへ1カ月間旅行に行って帰国しました。5カ月の間にたくさんのトラブルにも遭遇しましたが、日本ではできないことをたくさん経験し、英語力を含め自己成長をしっかりと感じる事が出来ました。



私にとってこの4年間は本当に充実していました。とくに最後の1年で私はとても成長でき、就職活動・教育実習・交換留学を1年でやりきったことが、大きな自信となりました。そして、卒業式で外国語学部の総代を任せていただき、最高に思い出深い学

生生活の締めくくりが出来ました。私は既に入社式を終え、研修期間に入っています。私の仕事は、お客様に安全と安心をお届けする事です。これから社会に出て頑張る事として、何事も1番を目指します。OGUで学んだ事を最大限に活かして、社会の役にたてるように精一杯頑張ります。

(マツミヤ アヤ)

就職活動で得たもの

勝連 望未さん (2013年英語学科卒業。4月より株式会社バイオテックに勤務予定。)

私は4月から新社会人として、バイオテックという会社で「育毛」に携わる仕事に就きます。この仕事を選んだきっかけは、ウィッグや植毛という手段ではなく、自分の髪の毛をバイオの力で健康な髪の毛に育てていく「育毛」の仕事というのが、私の中で新鮮で、興味が湧いたからです。



私が就職活動を始めたのは3年次の1月でした。12月から周りが就活一色に染まりリクルートスーツを着て活動している中、当時アルバイトに励んでいた私は、1ヶ月遅れでの就活スタートでした。飲食店のアルバイトをしていたこともあり、就職先としてもお客様と接する機会の多い接客業に興味がありました。でも、人と関わる仕事に就きたいという思いを抱きつつも、周りに比べて就活を始めるのが遅かった私は、何から始めたら良いのか分からず、とりあえず気になる会社にエントリーをし、何の動きもないうまま時間だけが過ぎていきました。

そんなある日、友達が声をかけてくれて、一緒に

大学の中にあるキャリアセンターに足を運びました。そこでは、たくさんの職員の方や先輩方が就職活動中の学生と1対1になって話をしていました。私もその日、キャリアセンターの職員の方に履歴書の書き方の相談をしました。今まで私にはこれと言ってアピールできる点など無いと思っていたのですが、その職員の方と中学時代のことや高校時代のことを話していくうちに私のアピールポイントがどんどん出てきました。自分では気づかなかった自分の強み・長所を、キャリアセンターの方が私のこれまでの人生の歩みの中から引き出し、私に気付かせてくださいました。一人で何時間かけても出来なかった履歴書がその1日で仕上がったことに自分でも驚きでした。私はなぜもっと早くここに来なかったのか、大学の便利な施設を活用していなかったことを反省しました。

それからは、何かあればすぐにキャリアセンターに行き、就活の話をしたり、選考の状況を報告するようになりました。人前で話すのがとても苦手だった私は、会社の面接では極度の緊張から話せなかったこともありましたが、キャリアセンターの模擬面接を何度も受け、人前で話す練習をしました。練習のおかげで、次第に面接の雰囲気にも慣れていき、本番の面接で自分の伝えたいことを伝えられたと手ごたえを掴めるようになっていきました。そして、4年次の6月に内定をいただき、就活を終えました。

夏休みに入って、キャリアセンターの職員の方から「キャリアチューターになってくれないか」という依頼が来ました。私は、自分など力不足で果たして務まるのか不安がありましたが、自分自身も就活中に先輩のキャリアチューターの方にお世話になったことを思い出し、キャリアセンターへのご恩返しということと、そして人前に立つのが苦手な自分を変えられることができるかもしれないと思い、キャリアチューターをお引き受けすることにしました。主な活動は、後輩に就活のアドバイスをしたり、「内定

者報告会」で自分の就活体験談を後輩の前で発表したりといったキャリアセンターのお手伝いです。キャリアチューターとして就職活動の体験談を大勢の人々の前で発表することが多々あり、次第に人前で話すことが少しずつ楽しくなり、自分に自信が持てるようになりました。



大阪学院大学には、学生を支援するための行事や施設がたくさんあります。在学生の皆さんは、学内に設けてある施設を利用したり、イベントやプログラムに積極的に参加して欲しいと思います。自分の成長のために何か得られるものがそこにあると思うからです。 (カツレン ノゾミ)

チアリーダーとして 充実した大学生活

志村 彩さん (2013年3月英語学科卒業。4月よりマツダオートリース株式会社に勤務予定。)

私は大阪学院大学での4年間チアリーダー部に所属し、クラブ活動に力を注いできました。チアリーダーとしての活動は高校時代の3年間も含め、7年間続けたこととなります。毎日授業が終わった後に3時間半、休日は朝から夕方まで約6時間練習を頑張ってきました。そして、練習後にはアルバイトへ行き多忙な毎日を過ごしていました。

私たちのチームは全国1位を目標に日々練習に励

んでいました。また、4年次生になってからは、私は副キャプテンとして他のメンバーたちをまとめる役目も務めさせていただきました。楽しいことばかりではありませんでしたが、何百時間もかけて練習をして、その結果、大会やイベントで演技が成功したときの喜びや達成感、そして何よりも素晴らしい仲間に出逢えたことが、私が4年間頑張ってきた理由の1つだったと思います。また、家族や友達、周りの方々の支えがあったからこそ私は最後までやりぬくことができました。



4年次秋までクラブを続け、引退後の10月頃から本格的に就職活動を始めました。周りに比べてかなり遅れて就職活動を開始することになったのですが、幸運なことにマツダオートリースという会社から内定を頂くことができました。この会社は法人向けに車をリースする会社です。正直、私は車には全く詳しくありませんが、この会社を受けようと思った理由は、求人用の紙に「明るく元気のある人を求めている」と書かれてあったからです。明るく元気のある人—これはまさに私だと直感し、この会社で仕事がしたいと思い、応募し内定を頂きました。人事の方々もとても優しい方で4月から社会人として働くのが楽しみです。

私が内定を頂けたのも私一人の力ではありません。どのように就職活動を進めていったらいいのか、まったく分からない私を助けてくださったのはキャリ

アセンターの職員の方々です。とても親身になって話を聞いてくださったり、私の適性に合う会社と一緒に探してくださいました。そのおかげで、私はよい意味で気軽に楽しんで就職活動をすることができました。これから就職活動を行う後輩の皆さんへのアドバイスとして私から言えることは、キャリアセンターはぜひ利用すべきだということ、そしてより多くキャリアセンターに通った者勝ちだということです。

私は大学生生活の4年間でクラブ活動中心で過ごしてきましたが、本当に充実した学生生活だったと思います。クラブを引退してから気づきましたが、何か1つのことを本気でやるというのは素晴らしいことだと思います。それがどんなに小さなことでもよいので目標に向かって頑張るといことが大切だと思います。私は楽ばかりの人生などおもしろくないと思いますし、むしろ辛くてしんどいことを乗り越えてこそ本当の幸せや楽しみを得ることができるのではないかと思います。私はチアリーディングを頑張ってきたからこそ、就職の面接で胸を張って自分自身のことを話すことができたのだと思っています。ぜひ皆さんもどんなことでもよいので1つのことに力を入れて頑張りたいと思います。そうすることで、きっと将来何かに繋がります。諦めそうになったときは周りの頑張っている人を見てください。きっと力をもらえるはずですよ。何よりも初心の心を忘れないことが一番大切だと思います。

大学の4年間はあっという間に過ぎてしまいます。悔いのないように1日1日を大切に過ごしてください。勉強するのも遊ぶのも今しかないですよ！！素敵な学生生活を過ごしてください。



(シムラ アヤ)

Time Waits for No One

和田 惇さん (2013年4月英語学科卒業。4月より兵庫県立川西高校 英語科非常勤講師として勤務予定。)

〇〇高校入学・中退、〇〇高校入学・中退、桃谷高校入学・卒業、大阪学院大学入学・卒業見込・・・就職活動中、履歴書に何度も書いた私の学歴です。

私は中学生の時不登校になりました。中学1年生の5月に行けなくなり、その後一度も教室に入ることができませんでした。学校に行きたくても行けない、心の葛藤に苦しんだ3年間でした。約3年間学校に行けなかったブランクは大きく、高校も3度目の入学でようやく卒業へと至りました。



私は4月から兵庫県立川西高校で英語科の非常勤講師として教壇に立ちます。教師を志したのは中学生の時でした。不登校になった私を何とかしようとしてくれた先生に出会ったからです。

その後、大学4年次の時に教育実習を経験し、教師になる決意をしました。大学生生活を振り返って思い出深いことがいくつかありますが、中でも特に印象に残っているのは教育実習です。

教育実習は母校で行います。そう、私は、不登校で苦しんだあの中学校で教育実習を行うことになるのです。見るのも嫌、校門をくぐるだけでも緊張、ましてや校舎に入り、そこで実習をすることなど考えられないことでした。こんな気持ちを抱えて3週間実習を行うことができるのか。途中で逃げ出してしまうのではないか。緊張で押しつぶされてしまうのではないか。不安でどうしようもなかった私は、

慣れるために中学校に授業を見学させて欲しいとお願いしました。実習1ヵ月前のことです。

月曜日の5時間目。実習担当クラスである1年3組の教室に入り、英語の授業を一緒に受けました。突然入ってきた私に生徒達は興味津津です。授業は順調に進み、残り5分。英語で自己紹介をし合うアクティビティーが始まりました。すると私に向かって沢山の生徒が押し寄せ、自己紹介を始めました。次から次へと来る生徒達。気づけば周りを生徒に囲まれ大きな人だかりができていました。私は予想もしていなかった生徒たちの反応に驚きました。しかしそれ以上に嬉しくて、楽しくて、中学生たちが愛おしくなりました。

授業が終わり休み時間の間生徒と談笑をしていました。その後職員室で挨拶をし、帰途につきました。帰る時にふと気づいたことがありました。それは「母校の中学校が好きになっていた」ことです。あれだけ苦手としていた場所が、たった50分間一緒に授業を受けただけで好きになったのです。それは紛れもなく生徒の力によるものでした。彼らが私の気持ちを変えてくれたのです。この時「教育実習では生徒に恩返しをしよう」と誓いました。



実習を前に「私ができることは何だろうか」と考えていました。授業の腕は先生方に劣る。英語の知識も足りない。教育の経験もない。そんな私ができることは生徒と沢山関わることだと考えました。一緒に話をしたり活動をする。少しでも多くの生徒と触れ合い心に残る実習生であろうと思いました。そのことを意識して教育実習を行いました。生徒からあだ名をつけられ、地元の中学ですなのでその後、街中でばったり会うことも数回あったのですが、その

都度私の名前を覚えてくれていてにこやかに挨拶してくれていたのは、生徒と本気で向き合った実習の結果だと思っています。

大学での4年間はあっという間でした。気づけば1年が経ち次の学年へと進級です。「いろいろなことをしてきたな」と思う一方、もっと沢山のことができたのではないかとも思います。高校の恩師が「大学とは時間を買うものだ」と言っていました。その買った時間、限りのある時間をいかに有効に使うかが重要です。人間半年もあれば沢山のことを得ることができます。後輩の皆さんには、今ある1日を当たり前だと思わず、大切に過ごして欲しいです。私もこれからの毎日を大切に、まずは教員採用試験合格を目指します。 (ワダ アツシ)

編集後記

本号の最後に掲載しています和田君の記事のタイトル“Time Waits for No One”は、勿論有名な諺のTime and tide wait for no manをもじったものです。でも、元の諺のほうは「時や潮の流れは待ってくれない。だから、もしチャンスに遭遇したら決してそれを逃さないように。」ということを教えてくれているのに対して、“Time Waits for No One”のほうは、tide(潮流)ということばを外してtimeに力点を置くことによって、「時間は待ってくれない。だから、時間を有効に使うように。」ということを示唆しています。大学の4年間は瞬間に過ぎてしまいます。そして4年という歳月は何か1つのことを成就させるのに十分な長さでもあります。本学の卒業生の高橋尚子さんはマラソンのトレーニングを始めて4年後にシドニーオリンピックで金メダルを獲得するに至ったそうです。ぜひ皆さん、大学の4年間で有効に使って夢を実現してください。 (YK)

ニューズレター 第7号

発行 2013年3月30日

発行者 大阪学院大学外国語学部

発行者住所 〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36-1

(電話) 06(6381)8434

(学部 URL) http://www.osaka-gu.ac.jp/dhp/gaikokugo_gakubu/